

様式第 1 号

令和 8 年 6 月 30 日

文部科学大臣 殿

〔設置者の名称〕 学校法人大阪産業大学

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 小川 和彦

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	大阪産業大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学) 短期大学・高等専門学校・専門学校
大学等の所在地	大阪府大東市中垣内 3-1-1
学長又は校長の氏名	学長 小川 和彦
設置者の名称	学校法人大阪産業大学
設置者の主たる事務所の所在地	大阪府大東市中垣内 3-1-1
設置者の代表者の氏名	理事長 小川 和彦
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/shugakushien.html

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務部総務課 西 達也	072-875-3001	soumu@cnt.osaka-sandai.ac.jp
第2号の1	事務部庶務課・西峯 正晴	同上	syomuka-chousa@cnt.osaka-sandai.ac.jp
第2号の2	総務部総務課 西 達也	同上	soumu@cnt.osaka-sandai.ac.jp
第2号の3	事務部庶務課・西峯 正晴	同上	syomuka-chousa@cnt.osaka-sandai.ac.jp
第2号の4	事務部庶務課・西峯 正晴	同上	syomuka-chousa@cnt.osaka-sandai.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☒）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1) 実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数の基準数相当分》

「(2) ①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(3) ②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(4) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

その他

- ☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F127310108009	学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人 大阪産業大学		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	16,112,494,917円	17,144,123,298円	-1,031,628,381円
申請2年度前の決算	15,005,939,837円	16,184,789,744円	-1,178,849,907円
申請3年度前の決算	15,088,522,395円	16,194,678,671円	-1,106,156,276円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	29,879,385,661円	5,126,487,013円	24,752,898,648円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	7,578人	6,868人	90%
前年度	7,829人	6,850人	87%
前々年度	7,980人	6,997人	87%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について
(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況	人	人	%

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況	人	人	%

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
国際学部	国際学科	夜・通信	0	0	16	16	13	
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	夜・通信		0	28	28	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		0	18	18	13	
	商学科	夜・通信		0	16	16	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		14	0	14	13	
	国際経済学科	夜・通信			0	14	13	
情報デザイン学部	情報システム学科	夜・通信		0	18	18	13	
建築・環境デザイン学部	建築・環境デザイン学科	夜・通信		0	14	14	13	
システム工学部	システム工学科	夜・通信		0	16	16	13	
デザイン工学部	情報システム学科	夜・通信		0	18	18	13	
	建築・環境デザイン学科	夜・通信		0	18	18	13	
	環境理工学科	夜・通信		0	13	13	13	
工学部	機械工学科	夜・通信		0	20	20	13	
	交通機械工学科	夜・通信		0	13	13	13	
	都市創造工学科	夜・通信		0	18	18	13	

工学部	電気電子情報工学科	夜・通信		0	20	20	13	
(備考) 国際学部国際学科は 2025 年度、2026 年度に教育課程を変更 スポーツ健康学部スポーツ健康学科は 2024 年度、2025 年度に教育課程を変更 経営学部経営学科は 2025 年度、2026 年度に教育課程を変更 経営学部商学科は 2025 年度で募集停止 (2025 年度に教育課程を変更) 経済学部経済学科は 2025 年度、2026 年度に教育課程を変更 経済学部国際経済学科は 2025 年度で募集停止 (2025 年度に教育課程を変更) 情報デザイン学部情報システム学科は 2025 年度開設 建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科は 2025 年度開設 システム工学部システム工学科は 2025 年度開設 デザイン工学部情報システム学科は 2024 年度で募集停止 デザイン工学部建築・環境デザイン学科は 2024 年度で募集停止 デザイン工学部環境理工学科は 2024 年度で募集停止 工学部機械工学科は 2024 年度で募集停止 (2024 年度に教育課程を変更) 工学部交通機械工学科は 2024 年度で募集停止 工学部都市創造工学科は 2024 年度で募集停止 (2024 年度に教育課程を変更) 工学部電気電子情報工学科は 2024 年度で募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/campuslife/ins/jimu.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/sandai-corporation-info/wp-content/uploads/2026/06/%E5%BD%B9%E5%93%A1%E3%83%BB%E8%A9%95%E8%AD%B0%E5%93%A1%E4%B8%80%E8%A6%A7%EF%BC%88R8.6.1%EF%BC%89.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	エネルギー関係関連企業 元代表取締役社長	2026.6.1～ 令和11年開 催の定時評 議員会の終 結の時まで	法人業務の総理
非常勤	保育サービス関係企業代 表取締役社長	2026.6.1～ 令和11年開 催の定時評 議員会の終 結の時まで	組織運営体制へのチ ェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【作成過程】 シラバスの作成に際しては、入力必須項目(概要・授業の目的、授業計画、事前・事後学習、達成目標、成績評価基準)等を記載した作成要領を専任教員、特任教員および非常勤講師に配布し、執筆を依頼している。入力必須項目は教授会における承認事項のため、全学的に検討された内容となっている。 また、各授業のシラバスは各学科の専任教員が必要事項を満たしているかを監査し、不十分な内容であった場合は担当教員に再度執筆を依頼するなど内容の充実を図っている。 【作成・公開時期】 作成期間については、例年1月中旬～2月初旬に実施し、2月中旬～3月中旬にシラバスの点検を行っている。確認や修正作業を経た後、在学生の履修申請が可能となる3月下旬から公開している。 以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。	
授業計画書の公表方法	https://j04-asw.osaka-sandai.ac.jp/uniasv2/UnSSOLoginControlFree
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学における学士課程の授業科目は、各開講学科の卒業の認定に関する方針における位置付けを履修系統図で示しており、また、卒業の認定に関する方針および教育課程の編成及び実施に関する方針に則した授業内容や到達目標を設定し、授業計画で公表している。 単位授与・成績評価の際は、これらを踏まえて、授業計画と併せて公表している成績評価基準に基づき到達度を評価している。 以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。 なお、学修意欲については、毎年度各期に実施する「授業改善のためのアンケート」の中に、出席状況や準備学習の状況、授業に対する集中度合などを問う自己評価欄を設け、把握している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な指標の設定については「大阪産業大学 GPA 制度の取扱いに関する規程」において、以下の計算式に基づき年度毎及び累積の GPA を算出し、卒業判定・進級判定の各資料により教員間で共有するとともに、成績表に掲載し学生に明示している。 GPA＝(4×S の取得単位数 ＋ 3×A の取得単位数 ＋ 2×B の取得単位数 ＋ 1×C の取得単位数) ÷ 履修申請総単位数 (小数点第 4 位以下切り捨て。履修申請総単位数には教職課程科目等の卒業要件単位数に算入されない科目も含む。) GPA 制度の趣旨や算出方法については、学生に配布する HANDBOOK (履修要項) に掲載するとともに、Web サイトで公表している。 また、本学学則及び「大阪産業大学 GPA 制度の取扱いに関する規程」により、GPA による退学勧告制度を設けている。 以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.osaka-sandai.ac.jp/campuslife/ins/handbook.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学の卒業の認定に関する方針は、『学士課程教育の構築に向けて』(2008 年中央教育審議会答申)で示された「学士力」指針や、日本学術会議による「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」を参考にしながら、学科ごとにそれぞれの専攻分野の特性を踏まえて策定し、公表している。 また、学科ごとに策定している履修系統図により、卒業の認定に関する方針と教育課程の関係を明示しており、それに基づき所定の単位を修得した学生について学修成果を認め、各学部の卒業判定会議を経て卒業認定及び学位授与を実施している。 以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪産業大学
設置者名	学校法人大阪産業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/assets/file/disclosure/2025/R6-FinancialStatements.pdf
収支計算書 又は損益計算書	https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/assets/file/disclosure/2025/R6-FinancialStatements.pdf
財産目録	https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/assets/file/disclosure/2025/R6-FinalInventory.pdf
事業報告書	https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/assets/file/disclosure/2025/R6-ActivityReport.pdf
監事による 監査報告 (書)	https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/assets/file/disclosure/2025/R6-IndependentAuditorsReport.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 令和7年度事業計画書 対象年度: 令和7年度)
公表方法: https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/assets/file/disclosure/2025/R7-BusinessPlanStudies.pdf
中長期計画 (名称: 第三期中期事業計画 対象年度: 令和7~9年度)
公表方法: https://www.osaka-sandai.ac.jp/corporation/assets/file/jigyokeikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/inspection/inspection.html

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法 : <https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/inspection/index.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際学部 国際学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/in/in/ ）
（概要） 国際学部は、本学の建学の精神および実学的伝統に根ざし、実用的な外国語能力と確かな日本語の力を基盤とするコミュニケーション力を養うとともに、異なった文化的背景をもつ人びとと協働・共生し、地域社会と国際社会に貢献できる創造性豊かな職業人を育成することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/01P_20250422.pdf ）
（概要） 国際学科では、平和で豊かな国際社会の創造に貢献することを目指す社会人としての意識の涵養という教育目標に基づき、以下の知識・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与します。 1. 言語に関する知識と運用能力 日本語または特定の外国語に関する基本的知識と理解、およびこれを用いたコミュニケーション能力 2. 国際社会・文化の理解 世界諸地域の社会・文化・歴史や国際情勢に関する基本的知識と理解 3. 共生意識 世界諸地域と自国、もしくは自分との関係を問い直し、共生意識を育むための知識と理解 4. 社会性 他者との協調のもとに行動、実践し、協働作業に責任をもって取り組む能力 5. 課題解決能力 自らが主体的に課題を立て、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用することによって、これを解決する能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/01P_20250422.pdf ）
（概要） 国際学科では、ディプロマ・ポリシーで示した知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、課題解決能力などを身に付けるため、以下のような教育課程を編成・実施します。 1. 国際学科の教育課程は「総合教育科目」「専門教育科目」「実践教育科目」の 3 つの科目区分によって構成されます。 ・「総合教育科目」は、教養教育科目、言語文化科目からなります。学士課程に相応しい幅広い学問分野の素養を身につけるとともに、本学科での専門教育を念頭に置いた基礎学力を養います。 ・「専門教育科目」は、国際学部共通科目、専門演習科目、研究科目、卒業プロジェクトからなります。国際学部共通科目で、国際社会における言語文化、コミュニケーション、人間の心理と、それらに関わる今日の課題を学ぶ一方、専門演習科目・研究科目に英語、中国語、朝鮮語、フランス語、ドイツ語、日本語教員、国際社会の探究、心理学の 8 プログラムを設け、各言語・地域の専門性に特化した知識と言語能力を修得します。また学士課程での学びの成果を総合的に活用するための卒業プロジェクトの学修を義務づけます。 ・「実践教育科目」では、アクティブ・ラーニングの手法を積極的に導入し、専攻分野へ

の理解と関心を深めるとともに、課題の発見、調査、分析、解決などの能力を育成します。 2. 各科目の配当年次は、次のように定めます。 ・1年次は、「総合教育科目」中の大部分の科目、「専門教育科目」の一部科目、「実践教育科目」では「入門ゼミナール1・2」などの導入科目を履修し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけます。 ・2年次は、「総合教育科目」では言語文化科目の一部科目、「専門教育科目」の多くの科目、「実践教育科目」では「リサーチ・リテラシ演習1・2」など多様なアクティブ・ラーニング系科目を履修し、専門教育への意識を高め、スタディ・スキルをさらに向上させることを目指します。 ・3年次は、「専門教育科目」の多くの科目を中心に履修します。とくに「ゼミナール1・2」では、1・2年次を通じて修得してきた専攻分野に対する基礎的な理解を、演習形式の授業を通じて、より専門的な知見へと発展させます。 ・4年次は、「ゼミナール3・4」など「専門教育科目」の一部科目を履修し、大学での学びの集大成を行います。
入学者の受入れに関する方針(公表方法:https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/01P_20250422.pdf)
(概要) 国際学科では、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。入学者選抜にあたっては志願者の長所、可能性に着目することを旨とし、厳正に実施します。 (求める学生像) 1. 基礎的・基本的な知識・技能 (1) 高等学校までに学んだ教科・科目について、教科書レベルの基本的な知識・技能を身に付けている。 (2) とくにさまざまな言語文化を学ぶうえでのベースとなる国語・英語、国際社会や異文化への理解を深めるために必要な地歴・公民については、教科内容の十分な理解と基礎学力を有する。 2. 思考力・判断力・表現力等 (1) 学んだ知識を活用して、課題を解決するために論理的に思考し、その結果を表現することができる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 日本を含む世界の言語・文化・社会に強い興味を持ち、前向きに学ぼうという意欲を有する。 (2) 言語・文化・国籍などの違いを互いに認め合い尊重する多文化共生社会の実現に強い動機を持つ。

学部等名 スポーツ健康学部 スポーツ健康学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/sh/sh/ ）
（概要） スポーツ健康学科では「スポーツで人々を幸せに！」をスローガンに、「偉大なる平凡人たれ」の建学精神に基づき、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会に貢献できる「スポーツマインド」を有した人材の育成に資する教育・研究を行う。具体的にはスポーツ健康学科では1) 保健体育科教諭、2) スポーツ指導者、3) 健康増進活動を支援できる人材、さらには、4) 地域のスポーツ振興を担える人材を輩出することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/02T_20240528_s.pdf ）
（概要） スポーツ健康学部では、地域社会や学校教育現場における子どもの体力づくりやアスリートの競技力向上、また高齢者の健康寿命の延伸などを支援するだけでなく、スポーツを通して活気のある社会をつくることを目標とし、自発的に協働できる人材、つまり「新しい公共」の担い手となる以下のような実践的指導力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（体育学）の学位を授与します。 1. 専門的知識 1) 体育・スポーツ・健康科学の専門知識を身につけている。 2) 異なる文化や価値観を理解しようとするための学士として多様かつ必要な教養を身につけている。 2. 汎用的技能 1) 特定の外国語を用いて最低限度のコミュニケーションを図ることができる。 2) ICTを用いて情報を収集・集計・分析し、最適な方法で表現できる。 3) 実践の場で起こっている事柄について、客観的な視点から分析し、問題を解決するための方略を創造できる。 4) 初めての事柄について真摯に向き合い、学ぼうとする姿勢を身につけている。 3. 志向性 1) 集団の一員として役割やルールを理解し協働できる能力を身につけるとともに、高い身体能力を獲得している。 2) 集団および個人で設定した目標に対してプロセスを重視しながら実現していく態度を身につけている。 3) 指導者としての科学的根拠に基づく知識とスキルを身につけている。 4) 指導者としての倫理観を身につけている。 5) 次世代に繋げるための体育・スポーツ・健康科学を創造する態度を身につけている。 4. 創造的思考力 1) 体育・スポーツ・健康科学領域で体系化された理論と、実践により身につけた身体知を活かし、社会の要請に応える資質を備えている。 2) 学修内容を活字にして表現することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/02T_20240528_s.pdf ）
（概要） 現場で活躍するスポーツ・健康科学の専門家を育成するべく、実践教育の中での専門性を高めるために以下のように教育課程を編成します。 ・スポーツ健康学部のカリキュラムは「総合教育科目」「専門教育科目」「実践教育科目」により構成される。 ・「総合教育科目」は、1・2年次に配当されており、学士としての基本的知識・教養を身に付けることだけでなく、スポーツ・健康科学の隣接領域についても理解し、学生自身が将来的に主専攻とリンクさせて考えて、新しい領域へと発展できる礎をつくることを目指す。 ・「専門教育科目」は1・2年次に配当されている「専門基礎科目」、主に2・3年次に配

当されている「専門応用共通科目」「専門応用コース科目」、3・4年次配当の「専門研究」から構成され、段階的に基礎から応用へ、そして専門性の深化を目指す。 ・「専門応用コース科目」は、2年次から4年次までに配当されており、コース名「身体教育学コース」「スポーツ科学コース」「地域・健康科学コース」の科目群に区分し学年を追うごとに専門的にかつ広く応用できることを目指す。 ・「実践教育科目」は「リテラシ科目」「学部科目」「キャリア科目」からなり、実学という側面から専門教育へのアプローチを目指す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/02T_20240528_s.pdf）
（概要） スポーツ健康学科では、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を求めます。 （求める学生像） 1. 基礎的・基本的な知識・技能 (1) 高等学校までに学んだ各教科等の基礎的な知識・技能を身に付けていること。 2. 思考力・判断力・表現力 (1) 学んだ知識を活用して、課題を解決するために論理的に思考し、その結果を表現することができること。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 集団あるいは個人での身体活動の楽しさを体得し、スポーツ活動を実践できること。 (2) 「スポーツで人々を幸せに」するために、体育、スポーツ、健康に関する知識や技能を他者のために発揮しようとする。 なお、編入学試験では、健康、運動、体育、スポーツに関する基礎的な知識・技能を有するとともに、短期大学や大学等で学んだことをさらに深め、運動やスポーツを通して社会に貢献しようとする者を対象とします。

学部等名 経営学部 経営学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/bm/adm/ ）
（概要） 経営学科は、本学の建学の精神である「偉大なる平凡人たれ」に基づき、社会のさまざまな場面や役割を通して、人々の協働活動に貢献しうる人材を養成することを目指す。 1. 組織の管理や戦略活動に関する基礎知識を持つ人材。 2. 経営活動を適切に記録、測定、分析を行いうる人材。 3. さまざまな産業分野に関する幅広い知識を持つ人材。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/03-01B_20250422.pdf ）
（概要） 経営学科は、学則に定める所定の期間在学し、経営管理、会計、流通、マーケティング、情報システム管理に関する科目を体系的に履修し、所定の単位を修得し、教育目標に掲げた「どこでもイノベーター」が備える3つの能力を身に付けた学生に対し卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与します。この3つの能力を備えるには、「OSU イノベーター力」として卒業までに以下の資質・能力を身に付けます。 1. 知識・理解 ・さまざまな組織体の課題を自ら抽出、理解し、解決できる知識を身に付けていること。 ・課題解決の過程において生じる状況変化を常に把握、理解できること。 ・修得した知識、理解をさまざまな組織、社会で応用できる知識を身に付けていること。 2. 技能・技術 ・抽出した課題の状況と原因を整理、分析する技能・技術を身に付けていること。 ・課題解決にあたって他者と協調・協働できること。 ・さまざまな組織体におけるリーダーとして指導力・統率力を発揮できること。 3. 思考・判断 ・課題の抽出、理解、整理、分析を適時に判断できる能力を身に付けていること。 ・修得した専門知識と経験をもとに、組織全体を俯瞰した検討、判断ができること。 ・修得した専門的知識と経験をもって、新たな価値創造となるものかを判断できること。 4. 興味・関心 ・社会的課題を積極的に発見・探求する意識を身に付けていること。 ・組織全体の俯瞰的な判断のために課題解決における代替案の提案ができること。 ・学修した専門知識が価値創造につながる意識をもち、常に実社会での応用を提案できること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/03-01B_20250422.pdf ）
（概要） 経営学科は、「どこでもイノベーター」を育成するため、以下のような教育課程を編成・実施し、教育目標を実現するために、経営学科の教育全体を俯瞰する経営学コースを設置するとともに、商学、会計スペシャリスト、ファッションビジネス、スポーツキャリアおよび交通まちづくりの特設コースを設置します。各自の専門性を養うため、コースごとに身につける素養を定めています。 <総合教育科目> 初年次教育では、経営学部経営学科における専門教育科目の学習の基礎学力を養い、幅広い学問分野の素養を身につけるために、教養教育科目、言語文化科目および身体科学科目を設置しています。 <専門教育科目> 経営学部経営学科では、「課題発見能力」、「課題解決能力」および「価値創造能力」を段階的に育成するために、専門教育科目を「基礎科目」、「展開科目」、「発展科目」に分類しています。 1 年次は「基礎科目」を配置し、経営学科での学びの全体像を理解し、2 年次以降ではよ

り専門に特化した学修を促すため、各コースで重点的に学習したいテーマにもとづき、「経営学展開・発展科目」、「商学展開・発展科目」「業界ビジネス科目」「会計・ファイナンス科目」、「経済・法律科目」、「特殊講義」「特設科目」を設置しています。

〈コース特設科目〉

① 経営学コース

学科全体を俯瞰するコースとしてビジネス全般の専門知識を学修する。経営学、会計学、商学の幅広い知識を身に付けるとともに、組織のビジネスリーダーとして活躍するための経営管理、経営戦略、経営組織に関する知識を養う科目を設置。

② 商学コース

経営学コースの基礎科目をもとに流通・マーケティングやグローバルビジネスに特化した新たな商品・サービス開発や提案ができる知識を養う科目を設置。

③ 会計スペシャリストコース

経営学コースの学びとともに、企業やさまざまな組織体の会計に関する知識を備え、会計スペシャリストの立場から企業等の活動を支援するための高度な専門知識を養う会計科目を設置。

④ ファッションビジネスコース

経営学コースの学びとともに、新たなファッションの提案や新たなファッションビジネスの展開を提案できる知識を養う科目を設置。

⑤ スポーツキャリアコース

経営学コースの学びとともに、未来のスポーツ関連ビジネスを提案できる知識を養う科目を設置。

⑥ 交通まちづくりコース

経営学コースの学びとともに、地域活性化やモビリティに関わる業界を深く学修し、未来の交通(モビリティ)やまちづくりを推進できる実践的な専門知識を養う科目を設置。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/03-01B_20250422.pdf）

（概要）

経営学科では、株式会社をはじめとする営利企業、地方自治体や政府関連機関、公益法人などの非営利組織体など幅広い組織体で活躍できる人材の育成を目標としています。経営学科では、本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。

（求める学生像）

1. 基礎的・基本的な知識・技能

(1) 高等学校までに学んだ教科・科目について、基本的な知識・技能を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力等

(1) 学んだ知識の論点を整理し、その知識を活用して、組織活動においてコミュニケーションを図ることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

以下のような意欲のある人を求めます。

（入学前）

(1) 明確な目的意識をもち、主体的に勉学や他者との協働に取り組むことができる人

（入学後）

(2) 経営活動で必要とされる専門知識を主体的、継続的に学び、それらを高めていく意識を持つ人

(3) 身に付けた知識・能力を他者との協働の場で提供し、他者とそれらを相互に高めあうことができる人

(4) 自らの考えや意見を他者に論理的に伝える方法を自ら改善していく努力ができる人

学部等名 経済学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/eco/eco/ ）
（概要） 経済学科は、情報化・国際化が進展する経済社会を対象として、経済社会システムの諸側面に注目して研究を行い、その仕組みを明らかにすることを研究上の目的とする。そしてそこで得た知見に基づいて、経済の基礎知識と経済社会の仕組みとを理解し、変容を続ける現代社会を読み解く能力を持つと共に、社会の諸課題に立ち向かい、将来を開拓する責任ある主体を育成することを教育上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/04-01E_20250422.pdf ）
（概要） 経済学の基礎知識を学んだ上で、情報化・国際化に対応した講義や就職を意識したキャリア教育関連科目などを通じて、実践的な科目を修得し、以下に示す幅広い知識・能力を習得し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。 1. 知識・理解 ・人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 「企業経済」、「産業組織」、「生活経済」、「社会福祉」、「財政」、「金融」、「環境」などのより具体的な対象において、また「世界の中の日本」を意識しながら国際社会において、経済学がどのように活用されているのかを理解することができる。 2. 汎用的技能 ・コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて自分の意見を表現でき、また他者の意見を理解することができる。幅広い国・地域の人々とのコミュニケーション経験を持ち、初対面の人とも日本語と特定の外国語を用いて自由に対話できる。 ・数量的スキル 経済学の基本的な知識を数量的に説明することができる。日本やアジア・太平洋地域の主な国と地域について、数量的な知識を習得している。 ・論理的思考力 経済理論の知識を踏まえて社会の変化を捉え、時事問題等について自分の見解を述べ、異なる意見と比較することができる。世界の動向や経済政策について、経済理論を踏まえて意見を述べることができ、他の意見との相違点を理解することができる。 ・問題解決力 新たに直面した問題に対し、自らの知識・経験を生かしつつ、関連する情報・データを収集・分析し、その解決に向けて行動することができる。国際間の社会的相違や関係者の意見の相違を踏まえて、問題を柔軟に解決することができる。 3. 態度・志向性 ・チームワーク、リーダーシップ 自らが所属する組織の課題解決に向けて、メンバーと協調しつつ、責任感を持って積極的に行動することができる。日本を含む諸国の人々を尊重し、チームワークを維持することができる。 ・市民としての社会的責任 経済社会に関わる人々の多様性を理解し、経済学の知識を用いて、社会の発展のために行動できる。日本を含む諸国の事情に対する知識を持ち、異なる社会的背景を持った人々を尊重して協調的に行動できる。 ・生涯学習力 現実の諸問題に深い関心を持ち、問題解決のために必要な知識・資源を獲得することができる。国際社会の諸問題に深い関心を持ち、問題解決のために必要な知識・資源を獲得することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/04-01E_20250422.pdf）
（概要） 1, 2 年次には経済学部生として「経済学入門科目」、「経済学基礎科目」、「総合教育科目」を履修し、経済学を学ぶ上で必要となる基本的な知識や考え方を身に着けるとともに、一般的教養を養い社会に対する関心を深めます。その後、自らの関心に基づいて 3 年次から経済学専攻、国際経済学専攻を選択します。 3 年次から経済学専攻に配属された学生に対しては、1, 2 年次に培った経済学の考え方をさらに専門的かつ実践的に身に付け、経済の仕組みをより詳細に分析するための科目として「経済学専攻応用科目」が配置されています。「経済学専攻応用科目」は、「景気」、「高齢化」、「格差社会」、「環境」、「福祉」、「企業活動」、「金融」、「財政」、「情報」、「AI」などのキーワードを手助けとしながら、各分野における経済理論とその具体的な応用について理解を深めます。 3 年次から国際経済学専攻に配属された学生に対しては、1, 2 年次に培った経済学の考え方を、「世界の中の日本」や「アジアの中の日本」といった国際的な枠組みの中で活用するための学びを進める科目として「国際経済学専攻応用科目」が配置されます。「国際経済学専攻応用科目」は東アジア、東南アジア、アメリカ、ヨーロッパなどの「諸国の経済と社会」、「貿易」、「国際協力」、「国際開発」、「国際金融」、「観光」、「SDGs」などのキーワードを手助けとしながら、それぞれの地域の経済事情と各地域の経済と社会を読み解くための概念や理論について専門的に学んでいきます。これらの学習・研究を通じて、具体的な国際経済の現実と具体的な分析手法についての理解を深めます。 また、経済学部は両専攻の配属にかかわらず、2 年次後期から 4 年次にかけて「専門演習」を履修します。経済学部における学びの集大成としての「卒業論文」の作成・提出を行うため、「専門演習」では、資料読解、意見の形成と発表、討論の能力を訓練し、主体的な研究能力と協調性を学び、少人数による報告、議論を繰り返すことによって説得力を伴って自分の見解を表明できる能力の獲得を目指します。 そして、4 年次には大学での学びの最終成果として「専門演習」担当教員の指導のもと「卒業論文」を執筆し、合格することで卒業を目指します。 経済学の基礎知識を学んだ上で、実践的な科目を修得し、幅広い知識・能力を身につけるため、入門、基礎、応用へと体系的に学ぶために「総合教育科目」「専門入門科目」「専門基礎科目」「専門応用科目」「専門実践科目」を配置します。 初年次に経済学部生全員が履修する少人数の基礎演習 1、基礎演習 2 を配置し、また 2 年次に基礎演習 3 を配置し、さらにより専門性の高い経済学を発展的に習得できるよう、少人数による専門演習 1, 2, 3, 4, 5 を配置します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2025/04/04-01E_20250422.pdf）
（概要） 経済学部は、変動する経済社会に対応できる人材を教育することを目標として、「経済学科」を設置し、経済社会の様々な課題を解決しようとする意欲をもった学生を募集しています。経済学部では 2 年間で修得した経済学の基礎的知識と学生自身の興味関心に基づいて、「経済学専攻」、「国際経済学専攻」の 2 つの専攻のどちらかに配属されます。そこで、経済学部では、経済学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて、下記のような資質を持つ人の入学を募っています。 （求める学生像） (1) 基礎的・基本的な知識・技能について 1. 日本語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力 2. 外国語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力 3. 地理歴史公民分野の基礎知識 4. 科学技術についての基礎知識 (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について

1. 人との基本的なコミュニケーション力
 2. 基本的な論理的思考力
 3. 異文化理解への関心
 4. 日本や世界の社会・文化・時事問題への興味・関心
- (3) 主体的に学習に取り組む態度について
1. 現代社会の動きや日本経済、ビジネスに関心を持っていて、これからの社会がどんな方向に進んでいくのか、きちんと学びたい学生。
 2. 将来の進路についてはっきりした意志を持ち、グローバルな視野を持ちたい学生。
 3. 主体的に物事に取り組み、自らの知識や経験を発展させる意欲がある学生。上記のような資質と関心を持った学生を求めるために、経済学部では、A0 入試、推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試などを設け、上記の資質と関心について学力だけに偏らない多面的な評価を行って学生を募集します。

学部等名 情報デザイン学部 情報システム学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/id/is/ ）
（概要） 情報デザイン学部では、「人にやさしいモノ・コトづくり」が人々の共感と相互理解を促進し、社会を安心・安全なものにするという信念のもと、現代社会の基盤となる情報システムのデザインに携わることのできる人材の養成を目指す。 具体的には、情報システムのデザインには、「つくる」デザインと「つかう」デザインの二つの側面があり、特に「人にやさしい」情報システムでは両面を理解する必要がある。「つくる」デザインでは、使う人を理解する技術を取り入れ、情報通信技術を中心に学び、情報システムの設計・構築・運用に関わる技術者を養成し、「つかう」デザインでは、基礎的な情報通信技術を学んだ上で、人がシステムから受け入れるメディア技術とシステムを使う人を理解する技術を学び、人にやさしい情報システムの提案・活用ができる人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/08H_20240430.pdf ）
（概要） 情報システム学科では、「人に優しい」情報システムの構築において活躍できる感性・創造力、情報システム産業に関する技術に対する幅広い視野、高度情報化社会に貢献できる実践力、感性的思考と論理的思考を養うという教育目標に基づき、以下の知識・能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 1. 【システム技術力】システム系の情報技術の基礎知識を身につけている 2. 【メディア技術力】メディア系の情報技術の基礎知識を身につけている 3. 【問題発見】情報社会および情報産業にかかわる需要を見出し要約する力を身につけている 4. 【技術課題化】潜在的課題を含め現代社会にある課題を情動的側面で捉え情報技術課題として定式化する力を身につけている 5. 【倫理観】情報および情報技術を取り扱う者としての倫理観を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/08H_20240430.pdf ）
（概要） 情報システム学科では、「人に優しい」情報システムの構築において活躍できる感性・創造力、情報システム産業に関する技術に対する幅広い視野、高度情報化社会に貢献できる実践力、感性的思考と論理的思考を養うという教育目標に基づき、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけられるよう、以下のような教育課程を編成・実施します。体系的な学習ができるように、フィールド教育科目と専門教育科目に分け、専門教育科目には基礎科目、専門科目、キャリア関連科目、卒業研究を配置しています。さらに専門科目にはシステム系科目、メディア系科目、PBL科目を設置しています。学生は、自身の能力特性と志向性に合わせてシステム系科目とメディア系科目の修得科目数を自由に調整可能なカリキュラム体系となっています。各コースの教科は、以下の通りです。 ・1年次では情報システムの設計デザインに関する課題発見について学習 ・2年次では課題を解決するための基礎技術の学習 ・3年次で課題を解決するための応用技術を学習 ・4年次で卒業研究を通して実際の課題解決に取り組む また、情報システム産業の社会的な貢献を理解するために、各年次に企業から実務経験者を招聘し、理論に偏ることのない教育が行えるようにも配慮しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/08H_20240430.pdf ）

(概要)

情報システム学科では本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感・賛同する人を受け入れます。入学選抜にあたっては、以下に示す「求める学生像」に照らし厳正に選抜します。

(求める学生像)

1. 基礎的・基本的な知識・技能
 - (1) 情報システム・情報メディアについて学ぶための基礎的学力を有する人。
2. 思考力・判断力・表現力等
 - (1) 情報デザインを発展させるための論理的思考力を有する人。
3. 主体的に学習に取り組む態度
 - (1) 「人に優しいシステム」の考え方に賛同する人。
 - (2) 情報システム（情報コンテンツ、データなどを処理するシステム）の設計・製作に興味のある人または情報システムを道具として情報メディア（情報コンテンツ、データ）の製作・編集に興味のある人。
 - (3) 情報システム・情報メディアについて深い興味を持ち、能動的に修得する勉学意欲をもつ人。
 - (4) 情報倫理観を備え、情報システム・情報メディアを人道的かつ平和的に使用する人。
 - (5) 修得した技術・能力を社会貢献に役立てられる人。

学部等名 建築・環境デザイン学部 建築・環境デザイン学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/aed/aede/ ）
（概要） 建築・環境デザイン学部は、都市インフラ、生活環境、人と自然、都市環境、建築、インテリア、クラフト、プロダクトのデザイン専門分野別に、創造力に溢れ、広い視野・豊かな感性・確かな技術力をもって、美・アメニティ・機能・安全を備える持続可能な環境・空間・モノを創出・維持する実務的な「デザイナー」を養成する。 また、デザイナーとしての基礎力（論理的思考力、多面的造形力、問題解決能力、豊かな感性、コミュニケーション・スキル、CAD・CG、AI などを含む情報リテラシー）を駆使していかなる分野においても活躍できる「幅広い職業人」を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/07M_20240430.pdf ）
（概要） 建築・環境デザイン学科では、都市インフラ、生活環境、人と自然、都市環境、建築、インテリア、クラフト、プロダクトの各々の専門分野において、美・アメニティ・機能を備える環境・空間・ものを創造し、維持することを担う実務的なデザイナーを養成していくという教育目標に基づき、以下の知識・能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）学位を授与します。 1. 美・アメニティ・機能を備える持続可能な環境・空間・ものを創出するデザイナーとしての基礎的な論理的思考、多面的造形力、確かな技術力を身につけている。 2. デザイン言語、CAD・CG、AI などを含む情報リテラシーを習得している。 3. 生活環境に対しての豊かな感性を身につけている。 4. 人を取り巻く環境や様々な災害からの防災などに関わる問題発見・解決能力を身につけている。 5. 社会や人とのコミュニケーション・スキル、プレゼンテーション能力を身につけている。 6. デザイナーとしての基礎力を多様な分野に応用・展開することができる。 7. それぞれのコースに合致した社会に役立つ資格を取得するための基礎的技術を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/07M_20240430.pdf ）
（概要） 建築・環境デザイン学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけられるよう、以下のような教育課程を編成・実施します。 「専門教育科目」では、講義科目によって知識を与え、PBL（Practice Based Learning、実践ベース学習）すなわち演習科目によって実践的な技術力・デザイン力を養成します。そのため、コース間の差異に留意しながら、講義科目とPBLの有機的連携、および、年次間の有機的連携を保つべく科目内容を構成しています。また、キャリア教育は演習科目内で行っています。 1年から2年次前期では建築・環境デザインの基礎を共通で学び、段階的にデザインの各問題群に触れながら学生自らがテーマや問題を発見すると同時に、デザインの基礎となる造形的思考とコンピュタリテラシーを学び、専門分野を理解する上での必要な素養を修得します。またグループによる制作や調査において協働する力、デザインの方法論を学びます。 1年次末で専門コースを選択し、3年次までの間に社会・環境や、ライフスタイルの変化に即応するものづくりに必要となる専門的知識・デザイン創出に必要なリテラシーを、専門分野を通して学びます。 4年次では専門コースで学んだ技術や知識を総合して、人・もの・空間の本質的な関わりを追求し、新たな文化や社会的価値をもたらすデザインを具現化する能力を習得します。 なお、資格に関しては、一級建築士・二級建築士・木造建築士受験資格、測量士補資格、施工管理技士、高等学校教諭一種免許状（理科、工業）および中学校教諭一種免許状（理

科)などの取得に対応した教育課程を編成しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/07M_20240430.pdf） （概要） 建築・環境デザイン学科では、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。入学者選抜にあたっては志願者の長所、可能性に着目することを旨とし、厳正に実施します。 （求める学生像） 1. 基礎的・基本的な知識・技能 (1) 高等学校までに学んだ教科・科目について、基本的な知識・技能を身につけている。 2. 思考力・判断力・表現力等 (1) 必要な情報を抽出して分析し、得られた結果から推論ができる。 (2) 学んだ知識を活用して、課題を解決するために論理的に思考して判断することができる。 (3) 自らの考えを適切かつ効果的に表現することができる。 3. 主体的に学習に取り組む態度 (1) 幅広い学びの分野、デザイン分野から自分にあった分野を見出すことのできる自主性を持っている。 (2) 創造力・表現力・知識・感性を豊かにすることに対して積極的に取り組む姿勢がある。 (3) 社会や環境に対して問題意識を持ち、あらゆる事柄に対する興味・好奇心を抱くことができる。

学部等名 システム工学部 システム工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/se/syen/ ）
（概要） システム工学部では、AIなどの情報技術に基づくソフトウェア（サイバー空間）と機械工学、交通機械工学、電気電子工学あるいは情報工学に基づくハードウェア（フィジカル空間）とを繋いで融合するシステム工学を目指す。 一般的な産業機械をはじめ、航空宇宙、福祉、バイオ機械や自動車、鉄道などの移動機械、半導体や電気設備、情報機器など、従来の工学部で培ってきたフィジカル空間での強みを活かしつつ、これまでは個々の学科で個別に学んでいたプログラミングやAI、制御などの情報技術を、コア科目として配置する。こうすることで、フィジカル空間（ハードウェア）においてそれらのサイバー技術（ソフトウェア）がどのように用いられ、機能し、制御しているのか、その稼働の仕組みを理解できる。このように、サイバー技術（ソフトウェア）で制御するフィジカル機器（ハードウェア）を理解し、実世界産業に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/09S_20240430.pdf ）
（概要） システム工学科では、専門分野の技術者としての役割を理解し、問題解決に対応できる技術者を育成するという教育目標に基づき、以下のような知識や技術、能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 1. 工学の基礎的な知識、機械工学の体系的な知識、自動車や鉄道などの交通機械分野の基礎知識や技術、電気電子工学および情報電子工学分野における幅広い知識・技術などのいずれかを専門として修め、その基礎や原理を体系的に理解している。 2. 専門分野ならびに専門分野に関連する他コースの基礎知識や技術について学び、人工知能(AI)技術など情報技術と組み合わせて活用することができる。 3. それぞれの専門分野において豊かな創造力と実学的知識を有し、自ら積極的に問題の発見、課題の提起ができる。 4. 専門知識を生かす人文・社会科学の教養と自然科学の基礎を備え、自身の専門分野と社会の関わりについて自らの考えを有している。 5. 論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など技術者として必要な能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/09S_20240430.pdf ）
（概要） システム工学科は7コース制とし、「機械システムコース」「機械デザインコース」「自動車工学コース」「鉄道工学コース」「交通システムコース」「電気電子工学コース」「情報電子工学コース」を設定します。各コースでは、それぞれ特徴ある専門科目を設定し、学生はいずれかのコースを選択します。一方で、各コースを横断する共通科目を豊富に配置し、学生は他コースから自由に選んで受講可能とします。 1 年次では、人文科学・社会科学などの教養教育科目のほか、言語文化科目、工学分野の基礎となる専門基礎科目を配置しています。特に、専門基礎科目では高校文系コースや専門高校出身入学者がやさしく工学の基礎を学べるように配慮した科目を設定しています。また、論理的思考能力と文章表現能力の涵養のため、実践教育科目には工学に特化した日本語の共通科目を配置しています。情報技術に関連した基礎科目を全コース共通で学習し、システム工学の基礎を学びます。 2 年次では、工学系の基礎科目から、各コースの専門科目へ繋がるように、それぞれのコースの特徴に応じた専門基礎科目を配置しています。専門基礎科目はコースを横断して共通で開講しています。各コースでは専門性に応じたカリキュラムツリーを設定し、専門を補完する科目を自由に選択することができます。さらに、情報技術に関する応用科目を学び、各コースの専門的なハードウェアを理解し、それらを組み合わせて運用する技術に発展する融合領域を学びます。

3 年次では、実験や実習が本格化すると共に、専門応用科目を学びます。さらに、卒業研究の準備として、ゼミナール等の科目を配置し、研究面でも本格的な活動を始めます。実験・実習は、各コースの専門性に特化した内容となっています。

4 年次では、主に卒業研究に取り組みます。3 年次までに獲得した知識や技術を活用し、与えられたテーマから課題を設定して、自ら解決する能力を養います。関連する他コースの科目と組み合わせて補完した知識も活用して、新たな価値の創造に取り組みます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/4/2024/05/09S_20240430.pdf）

（概要）

システム工学科では、様々な工学技術を活用して社会に貢献できる人材を育成します。そのために、生活の中で使用されている様々な製品やシステムに興味を持ち、自ら学び続ける意志のある学生を求めます。

（システム工学科が求める学生像）

1. 本学科のカリキュラムを学習する上での理数系の素養、もしくは、理数系の素養を身につけることができる基礎学力を備えている人
2. 工業製品やシステムが社会や自然に及ぼす影響や効果を理解したい人
3. 自らものづくりに積極的に取り組む意欲や新しいシステムを創り出す意欲がある人
4. 自主的に問題を見つけて解決できる能力を向上させたい人
5. 人間の幸福に寄与できる技術に興味を持ち、専門的に学び、社会に貢献したい人
6. 言語・文化・国籍などの違いを互いに認め合い尊重する多文化共生社会の実現に共感し協力できる人

（各コースが求める学生像）

（機械システムコース）

7. AI、プログラミング、制御などの情報技術『システム工学』と『機械のしくみ』に興味を持つ人
8. ロケット、ドローン、ロボットなどの最先端技術に興味を持ち、新しい『機械のしくみ』を考案することで社会貢献したいと強く望む人

（機械デザインコース）

7. AI、プログラミング、制御などの情報技術『システム工学』と『ものづくり』に興味を持つ人
8. 新しい材料の開発や新機能を実現する加工などの最先端技術に興味を持ち、それらの技術を用いて『新しいしくみ』をもつ機械を実現することで社会貢献したいと強く望む人

（自動車工学コース）

7. 自動車に興味をもち、ものづくりに積極的かつ意欲的に取り組む姿勢のある人
8. 安全・環境など社会的な面からも将来を見据え、次世代の自動車・モビリティ技術に対する自らの考えをもつ人

（鉄道工学コース）

7. 鉄道のシステム・設計・保守管理に興味をもち、ものづくりに積極的かつ意欲的に取り組む姿勢のある人
8. 安全・環境など社会的な面からも将来を見据え、次世代の鉄道・高速大量輸送技術に対する自らの考えをもつ人

（交通システムコース）

7. 乗りものや交通システムに興味をもち、ものづくりに積極的かつ意欲的に取り組む姿勢のある人
8. 安全・環境など社会的な面からも将来を見据え、次世代の交通システム・産業機械に対する自らの考えをもつ人

（電気電子工学コース）

7. 電気・電子回路や電力・エネルギー分野等に興味を持っている人
8. 科学技術をリードする電気系エキスパートとして社会に貢献したいと考えている人

(情報電子工学コース)

7. コンピュータや情報、AI に興味を持っている人
8. 科学技術をリードする情報系エキスパートとして、各種システム構築を図り社会に貢献したいと考えている人

学部等名 経営学部 商学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/bm/dis/ ）
（概要） 商学科は、専門知識の修得と独立心やコミュニケーション能力の向上により、経済社会システムの最適化のために最適な流通システムを構築・提案しうる能力社会で信頼される人材を育成することを教育研究上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/03-02C_20240528_sh.pdf ）
（概要） 経営学部商学科では、本学の教育理念に基づき、所定の単位修得をもって以下の資質・能力を備えた学生に対して卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与する。特に IT 化、グローバル化、高齢化という激動する環境下において、最適なビジネスのシステムを理解そして構築するために必要な一般教養、表現力、専門知識に関する能力の習得を重視する。 1. 知識・理解 近未来のビジネスパーソンとして必要な一般教養や外国語などの知識や、企業活動と結びついた「ヒト、モノ、カネ、情報」の流通に関する専門知識を有している。加えて、スポーツキャリアコースでは、スポーツビジネスで活躍する際に必要なスポーツに関する専門知識を習得している。 2. 思考・判断 激変する社会において時勢を見据え、不確実性の高い環境下で意思決定を図ることができ、その礎となる専門知識を有している。 3. 興味・関心・態度 実社会、特に現代ビジネスの課題を積極的に発見することができ、探求するための必要な幅広い方法を有している。また専門知識を実践で活用する姿勢を備えている。 4. 技能・技術 少人数制の演習科目などを通じて文献の輪読や討論などを行う中で、他者からの質問に對して的確に回答できるなど表現力および協業力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/03-02C_20240528_sh.pdf ）
（概要） 商学科では、教育目標の具現化のために次のような 4 つの履修モデルを設定し、それぞれの専門性に対応したカリキュラムを提供する。加えて、スポーツキャリアコースでは卒業後にスポーツビジネス界で活躍できるための専門知識の習得のためのカリキュラムも提供する。 商学科カリキュラム（4つの履修モデル） 1. 経営・情報システムモデル 経営と情報システムに関する専門基礎知識を持ち、高度な経営・情報システムを企画・立案できる能力を習得するためのカリキュラムを提供する。 2. 商品開発・広告・販売モデル 商品開発・広告・販売に関する専門基礎知識を持ち、ビジネスにおける様々な活動を通じて、顧客との新たな関係の創造と維持を実現する能力を習得するカリキュラムを提供する。 3. 物流・交通モデル 物流と交通に関する専門基礎知識を持ち、実践的な物流・交通システムを企画・立案できる能力を習得するためのカリキュラムを提供する。 4. 金融・会計モデル 金融と会計に関する専門基礎知識を持ち、企業と顧客双方に有益な金融・会計の情報とそれらのシステムを提供する能力を習得するためのカリキュラムを提供する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/03-02C_20240528_sh.pdf）
（概要） 商学科では、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。入学者選抜にあたっては志願者の長所、可能性に着目することを旨とし、厳正に実施します。 （求める学生像） 1. 基礎的・基本的な知識・技能 （1）高等学校までに学んだ教科・科目について、基本的な知識・技能を身に付けている人 2. 思考力・判断力・表現力等 （1）学んだ知識を活用して、課題を解決するために論理的に思考し、その結果を表現することができる人 3. 主体的に学習に取り組む態度 （1）「ヒト・モノ・カネ・情報」の流通する仕組みに関心を持ち、それを熱く学びたいという強い意識を持っている人 （2）資格・検定の取得を目標の一つとし、そこで身につけた技能を生かすことができる職業に就くことを希望している人

学部等名 経済学部 国際経済学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/eco/in_eco/ ）
（概要） 国際経済学科は、経済社会の情報化・国際化が進展する日本および世界の経済社会を対象とし、多様性と普遍的価値の調和をめぐる諸課題を解明することを研究上の目的とする。そしてその成果をもって、建学の精神に照らして実直な努力を尊ぶ精神と経済学の学識とを融合し、私心を去って現場主義を貫き、一体化・流動化が進む国際社会を先導する力を持った人材を輩出することを教育上の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/04-02E_20240528_kkz2.pdf ）
（概要） 経済学の基礎知識を学んだ上で、情報化・国際化に対応した講義や就職を意識したインターンシップ、キャリア教育関連科目などを通じて、実践的な科目を修得し、以下に示す幅広い知識・能力を習得し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。 - 知識・理解 ・人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 「世界の中の日本」を意識しながら国際社会において経済学がどのように活用されているかを理解することができる。 - 汎用的技能 ・コミュニケーション・スキル 幅広い国・地域の人々とのコミュニケーション経験を持ち、初対面の人とも日本語と特定の外国語を用いて自由に対話できる。 ・数量的スキル 日本やアジア・太平洋地域の主な国と地域について、数量的な知識を習得している。 ・論理的思考力 世界の動向や経済政策について、経済理論を踏まえて意見を述べることができ、他の意見との相違点を理解することができる。 ・問題解決力 国際間の社会的相違や関係者の意見の相違を踏まえて、問題を柔軟に解決することができる。必要な情報・データを収集・分析し、その解決に向けて行動することができる。 - 態度・志向性 ・チームワーク、リーダーシップ 日本を含む諸国の人々を尊重し、チームワークを維持することができる。 ・市民としての社会的責任 日本を含む諸国の事情に対する知識を持ち、異なる社会的背景を持った人々を尊重して協調的に行動できる。 ・生涯学習力 国際社会の諸問題に深い関心を持ち、問題解決のために必要な知識・資源を獲得することが出来る。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/04-02E_20240528_kkz2.pdf ）
（概要） 3年次から国際経済学科に配属された学生は、1、2年次に「経済学入門科目」および「経済学基礎科目」で培った経済学の考え方を、「世界の中の日本」や「アジアの中の日本」といった国際的な枠組みの中で活用するための学びを進めることになります。 3年次から配置されている「国際経済学科応用科目」は、東アジア、東南アジア、アメリカ、ヨーロッパなどの「諸国の経済と社会」、「貿易」、「国際協力」、「国際開発」、「国際金融」、そして「観光」などのキーワードを手助けとしながら、それぞれの地域の経済事情と各地域の経済と社会を読み解くための概念や理論について専門的に学んでいきます。これらの学習・研究を通じて、具体的な国際経済の現実と具体的な分析手法についての理解を深めます。

また、2 年次後期からは「専門演習」を履修し、各指導教員の指導の下で専門的な研究・実習を行います。「専門演習」では、資料読解、意見の形成と発表、討論の能力を訓練し、主体的な研究能力と協調性を学びます。そして研究の最終成果として「卒業論文」を執筆し、「専門演習」担当教員の指導を受け合格することで卒業を目指します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/sandai_info/wp-content/uploads/2024/06/04-02E_20240528_kkz2.pdf）

（概要）

経済学部は、変動する経済社会に対応できる人材を教育することを目標として、「経済学科」と「国際経済学科」から構成されており、両学科とも、経済社会のさまざまな変化に迅速に対応するとともに、経済社会の課題を解決しようとする意欲をもった学生を募集しています。このため、経済学部では両学科一括で学生募集を行い、2 年間で修得した経済学の基礎的知識と学生自身の興味関心に基づいて、各自が所属する学科を決定します。そこで、経済学部では、経済学部、経済学科、国際経済学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて、下記のような資質を持つ人の入学を募っています。

（求める学生像）

(1) 基礎的・基本的な知識・技能について

1. 日本語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力
2. 外国語の基本的な読む・書く・聞く・話す能力
3. 地理歴史公民分野の基礎知識
4. 科学技術についての基礎知識

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等について

1. 人との基本的なコミュニケーションができる。
2. 日本語の基本的な論理的思考力
3. 異文化理解への関心
4. 日本や世界の社会・文化・時事問題への興味・関心

(3) 主体的に学習に取り組む態度について

1. 現代社会の動きや日本経済、ビジネスに関心を持っていて、21 世紀の社会がこれからどんな方向に進んでいくのか、きちんと学びたい学生。
2. 将来の進路についてはっきりした意志を持ち、グローバルな視野を持ちたい学生。
3. 主体的に物事に取り組み、自らの知識や経験を発展させる意欲がある学生。

上記のような資質と関心を持った学生を求めるために、経済学部では、AO 入試、推薦入試、一般入試、大学入学共通テスト利用入試などを設け、上記の資質と関心について学力だけに偏らない多面的な評価を行って学生を募集します。

学部等名 デザイン工学部 情報システム学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/dt/ise/ ）
（概要） 情報システム学科は、高度情報化社会において重要となる「人に優しい」感性的な評価の情報処理を基に、ネットワーク、組込みシステム、Web システム、感性デザイン、CG・アニメーションといった情報システム産業に関わる基礎技術の教育研究を実施する。また、コンテナ系とコンテンツ系の諸技術を新しい視点から科学的に探求し、高度情報化社会に貢献できる応用能力と実践能力を備えた人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/ise_policy.pdf ）
（概要） 情報システム学科では、「人に優しい」情報システムの構築での活躍できる感性・創造力、情報システム産業に関する技術に対する幅広い視野、高度情報化社会に貢献できる実践力、感性的思考と論理的思考を養うという教育目標に基づき、以下の知識・能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 1. ソフトウェア設計、ネットワーク、組込みシステムといったコンテナ系の情報技術の基礎知識を身に付けている。 2. Web システム、感性デザイン、CG・アニメーションといったコンテンツ系の情報技術の基礎知識を身に付けている。 3. 情報システム産業に関する社会的な需要を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。 4. 人と情報技術を繋ぐ役割を果たすためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身に付けている。 5. 情報技術による社会貢献に必要な問題発見・解決能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/ise_policy.pdf ）
（概要） 情報システム学科では、「人に優しい」情報システムの構築での活躍できる感性・創造力、情報システム産業に関する技術に対する幅広い視野、高度情報化社会に貢献できる実践力、感性的思考と論理的思考を養うという教育目標に基づき、以下のような教育課程を編成・実施します。体系的な学習ができるように、コンテナ分野（ソフトウェア設計、ネットワーク、組込みシステム）とコンテンツ分野（Web システム、感性デザイン、CG・アニメーション）に各 3 コースの教科群を設定しています。そして、各分野のコースから複数コースの教科を学びます。各コースの教科は、以下の通りです。 ・ 1 年次では情報システムの設計デザインに関する課題発見について ・ 2 年次では課題を解決するための基礎技術 ・ 3 年次で課題を解決するための応用技術を学習 ・ 4 年次で卒業研究を通して実際の課題解決に取り組む また、情報システム産業の社会的な貢献を理解するために、各年次に企業から実務経験者を招聘し、理論に偏ることのない教育が行えるようにも配慮しています。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/ise_policy.pdf ）
（概要） 情報システム学科では本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感・賛同する以下のような人を受け入れます。入学選抜にあたっては、志願者の長所、可能性に着目することを旨とし、厳正に実施します。 （求める学生像） （1）「人に優しいシステム」の考え方に賛同する人。 （2）情報コンテンツの設計・製作に興味のある人または情報コンテナ（コンテンツを取り

- 扱う情報システム) 設計・製作に興味のある人。
- (3) 情報システム技術に深い興味を持ち、能動的に修得する勉学意欲をもつ人。
 - (4) 情報倫理観を備え、情報システムを人道的かつ平和的に使用する人。
 - (5) 修得した技術・能力を社会貢献に役立てられる人。
 - (6) 情報システム技術を学ぶための基礎的学力を有する人。
 - (7) 情報システム技術を発展させるための論理的思考力を有する人。

学部等名 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/dt/edd/ ）
（概要） 科学技術革新の急速な展開、社会環境の変貌が進んでいる現在社会において、広く社会に通じるデザインの諸問題を見出し、横断的な視点からの問題解決への提言をおこなう能力が重要となってきた。そこで、このような社会に対応した、美・アメニティ・機能を備える持続可能な環境・空間・モノを、広い視野、豊かな感性、確かな技術力・想像力に基づいてデザインし、より良い生活環境を創出できるような能力を身につけるための総合的な教育研究を実施する。
卒業又は修了の認定に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/edd_policy.pdf） （概要） 建築・環境デザイン学科では、都市環境、建築、インテリア、クラフト、プロダクトの各々の専門分野において、美・アメニティ・機能を備える環境・空間・モノの創造を担う実務的なデザイナーを養成していくという教育目票に基づき、以下の知識・能力を身に付け、かつ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 1. 美・アメニティ・機能を備える持続可能な環境・空間・モノを創出するデザイナーとしての基礎的な論理的思考能力、多面的造形力、確かな技術力を身につけている。 2. デザイン言語、CAD・CGを含む情報リテラシーを習得している。 3. 生活環境に対しての豊かな感性を身につけている。 4. 人を取り巻く環境に関わる課題発見・問題解決能力を身につけている。 5. 社会や人とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている 6. デザイナーとしての基礎力を多様な分野に応用・展開することができ、広く社会に貢献できる力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/edd_policy.pdf） （概要） 「専門教育科目」では、講義科目によって知識を与え、PBL（Practice Based Learning、実践ベース学習）すなわち演習科目によって実践的な技術力・デザイン力を養成します。そのため、コース間の差異に留意しながら、両科目群の有機的連携、および、年次間の有機的連携を保つべく科目内容を構成しています。また、キャリア教育は演習科目内で行っています。 1、2年次では専攻コースに分かれず、段階的にデザインの各問題群に触れながら学生自らがテーマや問題を発見すると同時に、デザインの基礎となる造形的思考とコンピュータリテラシーを学び、専門分野を理解する上での必要な素養を修得します。またグループによる制作や調査によって協働する力、デザインの方法論を学びます。 3年次で専門コースを選択し、環境・社会・資源問題や、ライフスタイルの変化に即応するものづくりに必要となる専門的知識・デザイン創出に必要なリテラシーを、専門分野を通して学びます。 4年次では専門コースで学んだ技術や知識を総合して、人・もの・空間の本質的な関わりを追求し、新たな文化や社会的価値をもたらすデザインを具現化する能力を習得します。 なお資格に関しては、1級建築士および2級・木造建築士受験資格等、高等教育教諭一種免許状（工業、工芸、美術）および中学校教諭一種免許状（美術）の取得に対応した教育課程を編成しています。
入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/edd_policy.pdf）

(概要)

建築・環境デザイン学科では、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。入学者選抜にあたっては志願者の長所、可能性に着目することを旨とし、厳正に実施します。

(求める学生像)

1. 幅広い学びの分野、デザイン分野から自分にあった分野を見出すことのできる自主性を持っている。
2. 創造力・表現力・知識・感性を豊かにすることに対して積極的に取り組む姿勢がある。
3. 社会や環境に対して問題意識を持ち、あらゆる事柄に対する興味・好奇心を抱くことができる。

学部等名 デザイン工学部 環境理工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/dt/est/ ）
（概要） 環境理工学科は、水、大気および土壌の環境保全およびその改善技術、生物多様性と健全な生態系の保全、地球環境科学および持続可能な社会のしくみづくりについて考究し、工学および理学に立脚した環境学の体系を総合的に教育研究します。すなわち、みどり豊かな地域環境と健全な生態系の保全、自然と共生する持続可能な社会をデザインすることができる人材を養成することをめざし、サイエンスに対する探究心と専門性を有する人材を育成するとともに、グローバルな環境問題からローカルな環境問題までの課題解決にむけた行動力と環境マネジメント力、実践的な環境技能を育成することを教育研究上の目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/est_policy.pdf ）
（概要） 環境理工学科では、現代社会が必要とする環境学の体系を修得し、環境に対する高い専門性と柔軟な思考力を有する人材を育成するという教育目標に基づき、以下の知識・能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（理工学）の学位を授与します。 1. 知識・理解 ・環境に関わる基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と背景となる歴史・社会・自然と関連づけて理解する。 ・環境理工学の専門的知識を理解する。 2. 汎用的技能 ・知的活動、職業生活および社会生活でも必要なコミュニケーション能力 ・ICT活用能力 ・情報や知識を複眼的・論理的に分析・表現できる思考力 ・問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する能力と行動力 3. 態度・志向性 ・他者と協力して、行動するとともに、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員するチームワークとリーダーシップを培う 4. 統合的な学習と創造的思考力 ・獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、地域および地球の課題を解決する能力 ・自然を解き明かし、サイエンスを探究する知識・技能・態度
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/est_policy.pdf ）
（概要） 環境理工学科では、ディプロマ・ポリシーで示した知識・技能・態度・問題解決能力および人間力を育むという教育目標に基づき、以下のような教育課程を編成・実施します。 1. 環境理工学科の教育課程は、初年次科目として、本学科の専門性を明確にする「フィールド教育科目」、少人数ゼミによる社会人基礎力とキャリア形成につなげる「実践教育科目」を位置づけるとともに、一般教養を学ぶ「総合教育科目」、専門的知識や技術を学ぶ「専門教育科目」を段階的にバランス良く学ぶことで、「環境技術」「地域生態系」「環境緑化」「環境計画」という4つの分野に関する高い専門性を身につけます。 2. 全学年を通じて就職力や社会人としての能力の育成を意識した科目・資格講座を提供し、キャリア教育を実施します。 3. 高等学校教諭一種免許状（理科）および中学校教諭一種免許状（理科）の取得に向けて、実験およびフィールドワークの能力に優れた、レベルの高い教員養成のための教育を遂行します。

4. 自然環境の科学的理解を図る理学と、個別具体的な環境問題の解決を目指す工学の融合を目指す教育を行います。そのために教育理念に照らし合わせたカリキュラムは、現場（地域やフィールド）での「実践」を教育の柱の一つとしています。 5. 次代を担う科学技術系人材を育成する本学科の特性を活かして、実験およびフィールドワークの能力に優れた高校および中学校の理科教員を養成します。 6. 各科目の配当年次は、次の通りです。 ・1年次では、「総合教育科目」を中心に、「専門教育科目」のなかの基盤科目、「フィールド教育科目」および「実践教育科目」などを履修し、基礎学力を身につけるとともに、キャリアを見据えた実践的な科目を履修します。さらに実験および講義を含む「教職科目」もスタートします。 ・2年次では、「専門教育科目」の「基盤科目」に加えて「発展科目」および「演習」を学び、専門性と実践力を学びます。 ・3年次では、「環境技術」、「地域生態系」、「環境緑化」および「環境計画」の4つのコースにわかれ、「専門教育科目」の多くの科目を履修します。「プレ卒研」で研究室配属によって、さらに専門的な知識と理解を深め、自ら、課題解決する能力を培います。 ・4年次では、少人数ゼミの「卒業研究」によって自らの知的探究心を発展させます。大学の専攻に関する集大成の1年とします。 なお資格に関しては、高等教育教諭一種免許状（理科）および中学校教諭一種免許状（理科）の取得をはじめ、複数の資格取得に対応した教育課程を編成しています。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/est_policy.pdf）
（概要） 環境理工学科では、理学と工学に立脚した学問分野に興味をもち、その分野の柔軟な思考力、高い専門性および技術を用いて社会に貢献する人材を育成するため、つぎのような学生を求めます。 （求める学生像） 1. 基礎的・基本的な知識・技能 (1) 高等学校までに学んだ教科・科目について、教科書レベルの基本的な知識・技能を身につけている。 2. サイエンスとテクノロジーに対する高い興味と柔軟な思考力 (1) 地球規模から地域レベルの身近な暮らしまで、さまざまな環境問題に高い関心を有している。 (2) 環境に関するさまざまな課題に向き合い、自然科学の探求および環境保全に意欲を有している。 3. 主体的に課題にとりくむ態度と社会性 (1) フィールド（地域）で実践的に行動し、環境問題を解決することによる社会貢献をめざしている。

学部等名 工学部 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/mech/ ）
（概要） 機械工学科は、まず、機械工学を構成している基礎的な原理や理論、さらに設計と製作に関する技術を十分に身につけさせる。その上で、グローバルな視点で、機械工学に対する社会からの要求、近未来の展開を的確に理解し、周囲の人間と協調性を持ちながら未知の課題に対して主体的な取り組みができる技術者、研究者としての人材を育成することを教育の目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/mech_policy.pdf ）
（概要） 機械工学科は、機械工学を体系的に理解するとともに、ものづくりができる自立した機械技術者として課題解決ができ、機械工学技術者としてアイデアを構築・発信することができる次の項目を満たし、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 1) 機械工学の基礎知識の修得 数学・物理学・機械力学・材料力学・熱力学・流体力学の基礎知識を修得する。 2) 機械工学を応用した最先端科学技術の理解 CAE 設計・DX 情報化機械学・航空宇宙工学・カーボンフリーエネルギー学・制御&ロボティクス・先進材料および加工技術・医工学・ヘルスケアエンジニアリングといった最先端科学技術を理解する。 3) 課題発見・解決能力の修得 機械工学の応用的専門知識を修得することで課題発見能力を、演習や実習を通して課題解決能力を修得する。 4) 設計・デザイン基礎力の修得 設計や製図の演習・実習を通して、機械や製品を具現化するための設計およびデザインの基礎力を修得する。 5) 技術者としてのコミュニケーション能力 文章表現や口頭発表によって自分の考えを論理的に表現して伝達する能力を修得する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/mech_policy.pdf ）
（概要） ●工学を学びやすくする基礎専門科目を学ぶことで、特に高校文系コースや専門高校出身入学者がやさしく工学の基礎の知識を修学します。 ●総合教育科目と専門基礎科目を総合的に学ぶことで豊かな教養と工学基礎分野の知識を修学します。 ●機械工学専門基礎科目と機械工学専門応用科目では、特に機械工学の基本 4 力学(材料力学、熱力学、流体力学、機械力学)を重点的に学び、これらの基礎知識に基づいた創造力豊かなものづくりを学びます。 ●機械設計製作入門、機械工学実験、卒業研究 1、卒業研究 2、および実践教育科目を通じて、自ら考えて他者とのコミュニケーションを図り協働できる力を身に付けます。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/mech_policy.pdf ）
（概要） 機械工学科では、自然環境と人間社会との健全かつ調和を持った社会を構築する技術を担う人材を育成するために次のような学生を求めます。 （求める学生像） (1) ものづくりを通じて社会に貢献したいと強く望む人 (2) 科学技術に興味を持ち、本学科のカリキュラムを学習するための基礎的学力を備えている人

- (3) 国籍、性別、能力にとらわれず相互のコミュニケーションについて努力ができる人
- (4) 人間の幸福に寄与できる技術に興味を持ち、専門的に学びたい人
- (5) 自主的に問題を見つけて解決できる能力を向上させたい人

学部等名 工学部 交通機械工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/tm/ ）
（概要） 交通機械工学科は、自動車、鉄道、航空機、船舶など個々の輸送機械のみならず、それらを効率的に機能させる制御および管制のネットワークも含めた幅広いシステムについて探究する。これらの教育・研究により、交通機械とそのシステムに関する研究開発や実務に対応できる専門能力と、交通機械と人のつながりを多面的に考察し、環境問題や人々の福祉にも貢献できる能力を修得させることを教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/tm_policy.pdf ）
（概要） 交通機械工学科は、機械及び交通に関わる工学的な専門知識や技術、技能を習得するための専門基礎科目、応用科目、実験・実習科目、専門分野や専門知識と社会の関連性などについて学ぶ実践科目、専門知識の活用等に必要な幅広い教養を身に着けるための教養科目、自ら課題を発見し解決する能力やその過程や結果を表現する能力を養うための卒業研究を課しています。これらを履修して単位を修得し、卒業論文の提出及び発表を行って以下の項目に挙げる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 ・機械工学とその関連分野の基礎・原理を体系的に理解している。 ・自動車や鉄道など交通機械分野における自身の主領域の機器やシステムの構造、動作原理を理解している。 ・専門知識を生かす人文・社会科学の教養と自然科学の基礎を備え、自身の専門分野と社会の関わりについて自らの考えを有している。 ・実経験や情報、データを基に課題を発見し、専門知識を活用して段階的に対応できる。さらに実験や考察の内容、結果を口頭及び文書として、順序立てて表現することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/tm_policy.pdf ）
（概要） 交通機械工学科は、「自動車工学コース」、「鉄道工学コース」、「交通機械コース」の3コースを設置しています。すべてのコースにおいて、機械工学とその関連分野の基礎・原理を体系的に理解するとともに、各コースが扱う領域の機器やシステムの構造、動作原理を理解するためのカリキュラムを設置しています。教養教育・身体科学・言語文化科目及び専門としての数学や物理・化学を礎として4力学(材料力学、流体力学、熱力学、機械力学)をはじめとする機械及びその関連周辺科目を1、2年次中心に配置し、演習及び実験・実習による理解の促進を図ります。さらに、各コースの特徴を際立たせ、その領域を幅広く、詳細に学ぶための応用科目を2、3年次中心に配置しています。さらに実験・実習科目では、実機を用いた実体験による理解に加え、レポート作成やプレゼンテーションによる表現能力の向上を図ります。 卒業研究に関して、交通機械工学科では3年後期に所属する研究室を決定しセミナーという科目にて研究の準備を開始します。4年次を含め、時間をかけて研究対象や研究動向についての分析、調査や実験、考察を実施し、課題を発見する力や解決する力、論理的に思考する力を養うとともに、論文としてまとめる力、口頭発表する力を養います。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/tm_policy.pdf ）

(概要)

交通機械工学科では、機械工学の基礎科目、交通システムに関連する応用科目、ものづくり等への応用となる実験・実習科目を総合的にバランスよく学ぶことができます。その教育に当たり、本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。入学者選抜に当たっては志願者の長所、可能性に着目することを旨として実施します。

(求める学生像)

- (1) 高等学校において学んだ教科・科目について、本学科の専門科目を学習する上での基本的な知識・技能を身に付けている人
- (2) 交通技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、交通に関わるツールやシステムに強い興味を示し、自らものづくりに積極的に取り組む意欲がある人
- (3) 学業を通じた自らの伸展・成長に歓びを感じるとともに、社会や自身を取り巻く様々な疑問や未解明のことに興味を持ち、知識や経験を継続的に発展させ、論理的に考察する意欲のある人
- (4) 自らの考えを的確に伝えるための、様々な種類の文書理解や作成やコミュニケーションの基礎となる表現力を身に付けている人
- (5) 言語・文化・国籍などの違いを互いに認め合い尊重する多文化共生社会の実現に共感し協力できる人

学部等名 工学部 都市創造工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/ce/ ）
（概要） 都市創造工学科は、自然と人間との健全かつ永続的な調和と共生のもとで都市創造について幅広く考えることができ、社会に与える影響力の重要性と社会的責任とを理解・自覚し、良識と高い倫理感、かつ国際的視野をもって、自主的に課題を探究し、周りにも働きかけ、自らも解決策を見出し実践することを念頭に置き、実務的な事柄を着実に遂行できる能力を修得させることを教育目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/ce_policy.pdf ）
（概要） 学位プログラム「都市創造工学」では、所定の単位を修得し、以下の各項目を満足した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （1）都市基盤整備の計画、建設から維持管理に至る一連の過程について、幅広い知見と基礎的技術を習得する。（都市基盤整備に関する知識と基礎的技術） （2）自然災害、少子高齢化、地球環境問題など、現在と未来の都市問題を理解し、その解決のための技術的方策についての知識を習得する。（先進都市の創造に必要な知識と技術） （3）都市情報の処理と解析、自然災害と防災のシミュレーション、ICTやAIなどによる様々な都市基盤施設の利用と管理など、都市基盤整備の計画から建設、維持管理に至る様々な過程で利用されている情報処理技術の基礎を習得する。（情報技術基礎） （4）技術の社会や生態系に与える影響を理解し、社会的責任など技術者の心構えを身に付ける。コミュニケーション力やリーダーシップなど技術者として活躍するための基本的能力を獲得する。（技術者の倫理と基礎能力） （5）人々の福利や人と自然との共生の重要性を理解し、現在と未来のあるべき都市像を考えることのできる幅広い教養を有する。（一般教養）
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/ce_policy.pdf ）
（概要） 学位プログラム「都市創造工学」では、以下の通りカリキュラム・ポリシーを定めています。 ・都市基盤整備の計画、建設から維持管理に至る一連の過程について、幅広い知見と基礎的技術を習得するため、構造工学、建設材料、地盤工学、測量学の各分野については必修科目とし、技術者が身に付けるべき必須の知識・技術として位置づけています。 ・先進都市の創造に必要な知識と基礎技術を習得するため、以下の4つの学習分野について、分野選択的あるいは分野横断的に学習し、知識と技術を習得します。 具体的には、1)自然災害と防災、2)都市計画と交通システム計画、3)資源再生と自然エネルギー、4)応用構造設計の各分野について学びます。 ・都市基盤整備の計画から建設、維持管理に至る様々な過程で利用されている情報工学・情報処理技術の基礎について習得します。 ・社会的責任など技術者の心構えを身に付けるため、技術者倫理や他者との協働の重要性、リーダーシップなどについて学びます。また、技術者の基礎的能力として、数学や物理などの自然科学の基礎、日本語や外国語によるコミュニケーション力、一つではない解を見つけていくデザイン能力など、自律した技術者として身に付けるべき知見について習得します。 ・人々の福利や人と自然との共生の重要性を理解し、現在と未来のあるべき都市像を考えていくために、様々な教養科目について学びます。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/ce_policy.pdf ）

(概要)

学位プログラム「都市創造工学」では、都市再生と未来の都市創造において活躍することのできる技術者を育成することを目指しています。具体的には、都市基盤整備の計画から建設、維持管理に至る一連の過程について幅広い知見と基礎的技術、自然災害や少子高齢化、地球環境問題など都市の直面する様々な問題とその技術的解決策についての基本的知識、都市基盤整備と都市問題解決に関連する基本的な情報処理技術の基礎技術を有するような技術者を養成します。そこで、本プログラムでは次のような人を求めます。

(求める学生像)

- (1) 道路、鉄道、空港、橋梁など都市基盤整備の計画から建設、維持管理に至る一連の過程に興味がある人
- (2) 自然災害や少子高齢化、地球環境問題など都市の直面する様々な問題とその技術的解決について興味がある人
- (3) 情報処理技術に興味があり、それを都市基盤整備と都市問題解決への活用しようとする人
- (4) 本学科のカリキュラムを学習するための基礎的学力を備えている人

本学科では、自然科学の基礎や情報処理基礎を学習した後、それを専門分野の学習に応用する。そのために数学や物理など自然科学などを中心に幅広い基礎的学力を身につけていることが望まれる。

さらに、編入学、転入学する人には以下の要件が追加されます。

- (5) 入学までに学習した専門分野の内容を、本学科の教育プログラムの学習に活かすことができる人

学部等名 工学部 電気電子情報工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/en/eic/ ）
（概要） 電気電子情報工学科は、高度情報化社会を支える電子・情報・通信工学分野の基礎的素養と幅広い知識・技術を修得し、関連する分野の未来と変遷する社会ニーズに柔軟に対応でき、豊かな創造力と実学を有した人材を育成することを教育研究上の目的とする。この目的を達成するため、電気電子工学・電子情報工学分野の基礎的素養と幅広い知識・技術について、多様なバックグラウンドをもつ教員によるきめ細やかな指導を通して修得する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/eic_policy.pdf ）
（概要） 電気電子情報工学科は、基礎学力および電気電子工学および電子情報工学分野における以下の幅広い知識・技術を修得し、変化する社会ニーズに対応できる能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。 （1）電気電子工学分野と電子情報工学分野の技術者としての役割を理解し、社会に貢献できる能力を持っている。 （2）数学、物理学、化学、情報などの工学的基礎知識を修得している。 （3）電気工学、電子工学、情報工学などの専門分野における内容を理解している。 （4）電気電子工学分野に関する電力・エネルギー、計測・制御、物性・電磁波などの知識を修得している。 （5）電子情報工学分野に関する情報の活用や情報通信・ネットワークに関わる知識を修得している。 （6）実験・実習を通して、電気電子工学分野・電子情報工学分野の実学的な知識を習得している。 （7）論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など技術者として必要な能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/eic_policy.pdf ）
（概要） 電気電子情報工学科では、学科科目を共通科目群、電気電子工学科目群、電子情報工学科目群、専門総合科目群と分類し、電気電子情報工学分野の基礎から応用まで幅広く学習するカリキュラム体制としています。 1 年次では、人文科学・社会科学などの教養科目のほか、言語文化科目さらに、工学分野の基礎として数学、物理学、化学を配置しています。また、学科の教育内容を概観する科目として電気電子情報工学入門、電気電子情報工学分野の導入科目として回路の基礎を配置しています。 2 年次には、電気電子情報工学分野の中心基礎科目として電気回路、電磁気学、計算機工学を配置しています。また電気電子工学コースと電子情報工学コースの2つのコースを設置し、中心基礎科目からそれぞれの専門応用科目へつなげるための専門基礎科目を配置しています。 3 年次からは、電力・エネルギー、計測・制御、物性・電磁波や情報通信・ネットワークの各分野に体系的に学べるように専門応用科目群を配置しています。電気電子工学科目群あるいは電子情報工学科目群の科目を選択して履修するようになっています。また、電気電子情報工学ゼミナールを配置して卒業研究の準備としています。 また、専門総合科目群として1年次から3年次にかけて、実験・演習科目を配置しています。これらの科目で測定装置の使い方やデータの収集法を身につけ、基礎実験から応用的な実験まで幅広く取り組みます。さらに、レポート作成を通し、論理的な思考力、文章の作成方法を学習します。 4 年次では、卒業研究を実施し、これまでに修得した内容をもとに研究課題の調査・設定を行い、具体的に設定した研究課題に対する答えを自ら模索し探究する課程を通して、継続的に問題を解決できる技術者の育成を目指しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/pdf/eic_policy.pdf)

(概要)

電気電子情報工学科は、電気電子工学分野と電子情報工学分野の基本をしっかりと身につけた技術者の育成を行い、現代社会を支える科学技術をリードする電気電子および電子情報工学のエキスパートの育成を目指しています。そのため、以下のような学生を求めます。

(求める学生像)

- (1) 工学の基礎となる数学、理科の素養を有している人。
- (2) 電気回路や電子回路に興味がある人。
- (3) 電力・エネルギー分野について興味のある人
- (4) コンピュータや情報について興味がある人。
- (5) 新しいものやシステムを作りたいと考えている人。
- (6) 社会に役立つ技術者になりたいと考えている人。

(高校までに習得すべき学力水準)

電気電子情報工学科への入学時には、以下の内容を理解していることを望みます。工学の基礎科目として、高校までの数学、物理、化学の基本的内容が必要です。レポート作成のためには、内容を的確に表現し説明するための文章力や読解力が必要です。さらに、技術文書を読むために英語の基礎的語彙、文法知識なども必要となります。

入学者選抜においては、下記に示すように志願者の基礎学力の他、長所や将来への可能性を含めて厳正に実施します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/educational.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4 人	—					4 人
国際学部		12 人	9 人	2 人	人	人	23 人
スポーツ健康学部		10 人	10 人	2 人	人	人	22 人
経営学部		15 人	13 人	2 人	人	人	30 人
経済学部		19 人	5 人	5 人	人	人	29 人
情報デザイン学部		9 人	5 人	1 人	人	人	15 人
建築・環境デザイン学部		25 人	10 人	2 人	人	人	37 人
システム工学部		21 人	4 人	6 人	人	人	31 人
教養部		5 人	3 人	1 人	人	人	9 人
その他		1 人	3 人	2 人	2 人	人	8 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		523 人					523 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://kenkyu-s.osaka-sandai.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
内部質保証推進委員会の下に F D 部会を設置し、全学的に F D 活動を管理・把握している。F D 部会は、同委員会からの付託を受け、自ら F D 研修会を企画・立案し、実施を担っている。また、同委員会の下に設置された I R 部会では、授業改善のためのアンケートを年 2 回実施している。その集計結果に基づき教員が所見を記載し学生へフィードバック（学内公開）を行うとともに、授業改善に取り組んでいる。さらに、評価の高い教員への表彰制度を設け、その工夫点を学内外に共有するなど、組織的な授業改善を推進している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際学部	105 人	98 人	93.3%	424 人	343 人	80.9%	2 人	0 人
スポーツ健康学部	185 人	204 人	110.3%	684 人	717 人	104.8%	2 人	0 人
経営学部	500 人	604 人	120.8%	2,020 人	2,036 人	100.8%	10 人	4 人
経済学部	400 人	434 人	108.5%	1,920 人	1,602 人	83.4%	10 人	1 人
情報デザイン学部	130 人	130 人	100%	260 人	253 人	97.3%	0 人	0 人
建築・環境デザイン学部	165 人	178 人	107.9%	330 人	351 人	106.4%	0 人	0 人
システム工学部	240 人	198 人	82.5%	480 人	410 人	85.4%	0 人	0 人
デザイン工学	0 人	0 人	0%	624 人	567 人	90.9%	6 人	8 人

部								
工学部	0 人	0 人	0%	836 人	589 人	70.5%	8 人	6 人
合計	1,725 人	1,846 人	107.0%	7,578 人	6,868 人	90.6%	38 人	19 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際学部	60 人 (100%)	1 人 (1.7%)	49 人 (81.7%)	10 人 (16.7%)
スポーツ健康学部	135 人 (100%)	1 人 (0.7%)	127 人 (94.1%)	7 人 (5.2%)
経営学部	383 人 (100%)	4 人 (1.0%)	347 人 (90.6%)	32 人 (8.4%)
経済学部	319 人 (100%)	3 人 (0.9%)	285 人 (89.3%)	31 人 (9.7%)
デザイン工学部	241 人 (100%)	6 人 (2.5%)	224 人 (92.9%)	11 人 (4.6%)
工学部	272 人 (100%)	18 人 (6.6%)	245 人 (90.1%)	9 人 (3.3%)
合計	1,410 人 (100%)	33 人 (2.3%)	1,277 人 (90.6%)	100 人 (7.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【国際学部・スポーツ健康学部・経営学部・経済学部】 主な進学先: 大阪公立大学大学院、鳴門教育大学大学院、立命館大学大学院、など 主な就職先: アパホテル株式会社、株式会社ECC、株式会社近鉄百貨店、岩井コスモ証券株式会社、エスフーズ株式会社、シダックス株式会社、ALSOKグループ、株式会社一条工務店、ANA大阪空港株式会社、EY新日本有限責任監査法人、尼崎信用金庫、大林道路株式会社、大阪信用金庫、近畿日本鉄道株式会社、神戸信用金庫、ANA沖縄空港株式会社、株式会社大阪ニチレイサービス、など 法務省、警視庁、大阪府警察本部、京都府警察本部、和歌山県庁、岸和田市役所、熱海市役所、吹田市消防本部、など				
【デザイン工学部・工学部】 主な進学先: 大阪大学大学院、兵庫県立大学大学院、岡山大学大学院、福井大学大学院、岡山理科大学大学院、工学院大学大学院、大阪産業大学大学院、など 主な就職先: アクセンチュア株式会社、株式会社NTTデータNJK、株式会社NSD、青木あすなろ建設株式会社、株式会社浅沼組、株式会社池下設計、朝日ウッドテック株式会社、新家工業株式会社、岩間造園株式会社、日鉄テックスエンジ株式会社、株式会社きんでん、三菱電機プラントエンジニアリング株式会社、ANAラインメンテナンステクニクス株式会社、大阪市高速電気軌道株式会社、九州旅客鉄道株式会社、五洋建設株式会社、東亜建設工業株式会社、東洋建設株式会社、株式会社SRIシステムズ、NTTアノードエナジー株式会社、株式会社OKIソフトウェア、など 財務省、海上保安庁、兵庫県庁、福井県庁、京都市役所、東大阪市役所、和泉市役所、西宮市役所、宝塚市役所、豊橋市役所、兵庫県教育委員会、大阪市教育委員会、神戸市教育委員会、東大阪市教育委員会、など				

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
国際学部	71 人 (100%)	53 人 (74.6%)	11 人 (15.5%)	7 人 (9.9%)	0 人 (0%)
スポーツ健康 学部	174 人 (100%)	132 人 (75.9%)	15 人 (8.6%)	27 人 (15.5%)	0 人 (0%)
経営学部	506 人 (100%)	348 人 (68.8%)	60 人 (11.9%)	98 人 (19.4%)	0 人 (0%)
経済学部	382 人 (100%)	283 人 (74.1%)	40 人 (10.5%)	59 人 (15.4%)	0 人 (0%)
デザイン工学 部	289 人 (100%)	217 人 (75.1%)	34 人 (15.7%)	38 人 (13.1%)	0 人 (0%)
工学部	350 人 (100%)	231 人 (66.0%)	77 人 (22.0%)	42 人 (12.0%)	0 人 (0%)
合計	1,772 人 (100%)	1,264 人 (71.3%)	237 人 (13.4%)	271 人 (15.3%)	0 人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
【作成過程】 専任教員：委員会や教授会等を通じて「シラバス作成要領」を配布し、教員自身で必要事項を記入する。 特任教員・非常勤講師：学内連絡や担当教員を通じて「シラバス作成要領」を配布し、教員自身で必要事項を記入する。
【作成・公開時期】 作成期間は1月中旬～2月初旬に実施し、確認や修正作業を経た後、3月下旬から公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
本学における学士課程の授業科目は、各開講学科の卒業の認定に関する方針における位置付けを履修系統図で示しており、また、卒業の認定に関する方針および教育課程の編成及び実施に関する方針に則した授業内容や到達目標を設定し、授業計画で公表している。 単位授与・成績評価の際は、これらを踏まえて、授業計画で併せて公表している成績評価基準に基づき到達度を評価している。 以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。（再掲）
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学の卒業の認定に関する方針は、『学士課程教育の構築に向けて』（2008年中央教育審議会

答申)で示された「学士力」指針や、日本学術会議による「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」を参考にしながら、学科ごとにそれぞれの専攻分野の特性を踏まえて策定し、公表している。

また、学科ごとに策定している履修系統図により、卒業の認定に関する方針と教育課程の関係を明示しており、それに基づき所定の単位を修得した学生について学修成果を認め、各学部の卒業判定会議を経て卒業認定・学位授与を実施している。

以上のことは、各学部等で同様の取扱いをしている。(再掲)

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際学部	国際学科	124 単位	有	24 単位/セメスター
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	124 単位	有	24 単位/セメスター
経営学部	経営学科	124 単位	有	48 単位/年間
	商学科	124 単位	有	48 単位/年間
経済学科	経済学科	124 単位	有	48 単位/年間
	国際経済学科	124 単位	有	48 単位/年間
情報デザイン学部	情報システム学科	124 単位	有	48 単位/年間
建築・環境デザイン学部	建築・環境デザイン学科	124 単位	有	48 単位/年間
システム工学部	システム工学科	124 単位	有	48 単位/年間
デザイン工学部	情報システム学科	124 単位	有	48 単位/年間
	建築・環境デザイン学科	124 単位	有	48 単位/年間
	環境理工学科	124 単位	有	48 単位/年間
工学部	機械工学科	124 単位	有	48 単位/年間
	交通機械工学科	124 単位	有	48 単位/年間
	都市創造工学科	124 単位	有	48 単位/年間
	電気電子情報工学科	124 単位	有	48 単位/年間
G P A の活用状況 (任意記載事項)		本学学則及び「大阪産業大学 GPA 制度の取扱いに関する規程」により、GPA 制度に基づく修学指導を行っている。 公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/campuslife/ins/performance.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		2016 年度より大学 IR コンソーシアムが企画する学生調査(アンケート)を実施しており、2025 年度からは全国学生調査を実施している。アンケート項目の中で、特に学修時間や学修成果に関する調査結果を重視し分析を行うとともに、その結果を Web サイトで公表している。 公表方法： https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/teaching_ir.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/educational.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際学部	国際学科 (R8 年度入学者・入学年度)	887,000 円	250,000 円	180,000 円	教育環境充実費(60,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
	国際学科 (R2 年度から R7 年度入学者・ 2 年次以降)	870,000 円	－円	422,000 円	教育環境充実費(302,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
スポーツ 健康学部	スポーツ健康学科 (R8 年度入学者・入学年度)	992,000 円	250,000 円	207,000 円	教育環境充実費(87,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
	スポーツ健康学科 (R2 年度から R7 年度入学者・ 2 年次以降)	992,000 円	－円	485,000 円	教育環境充実費(365,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
経営学部/ 経済学部	経営学科/経済学科 (R8 年度入学者・入学年度)	887,000 円	250,000 円	168,000 円	教育環境充実費(48,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
	経営学科 商学科/ 経済学科 国際経済学科 (R2 年度から R7 年度入学者・ 2 年次以降)	870,000 円	－円	407,000 円	教育環境充実費(287,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
情報デザ イン学部/ 建築・環 境デザイ ン学部/ システム 工学部	情報システム学科/ 建築・環境デザイン学科/ システム工学科 (R8 年度入学者・入学年度)	1,163,000 円	250,000 円	265,000 円	教育環境充実費(145,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
	情報システム学科/ 建築・環境デザイン学科/ システム工学科 (R7 年度入学者・ 2 年次以降)	1,163,000 円	－円	551,000 円	教育環境充実費(431,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
デザイン 工学部	情報システム学科/ 建築・環境デザイン学科/ 環境理工学科 (R2 年度以降入学者・ 2 年次以降)	1,163,000 円	－円	551,000 円	教育環境充実費(431,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)
工学部	機械工学科 交通機械工学科 都市創造工学科 電子情報通信工学科 電気電子情報工学科 (R2 年度以降入学者・ 2 年次以降)	1,163,000 円	－円	551,000 円	教育環境充実費(431,000 円) 休学中の在籍料(120,000 円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 《学生に対する相談・指導》 教務課窓口では履修相談を始め、時間割や授業に関する相談を受けており、学生の不便なく、修学に取り組めるよう支援している。また、単位修得状況が芳しくない学生については面談を実施し、当該学生に適した修学指導を行っている。 《各種情報発信》 本学では、ポータルシステムという Web 上の総合案内システムを設けており、Web 上で各種情報（時間割、休講、補講、教室変更など）を発信し、学生へ情報を提供できるようにしている。 《障がいを持つ学生の支援》 障害者差別解消法に基づき、障害のある学生からの申告によりヒヤリングを実施し、身体障害者対応委員会にて対応を審議し、合理的配慮を行う体制を整備している。

《履修科目選択の支援》

本学では、学生の合理的な履修科目選択を支援するため、カリキュラムの体系的・順次性を明らかにした「カリキュラムツリー」の作成および学問分野や履修年次等を表す「科目ナンバー」の割り当てを実施し、公表している。

《連携部署における修学支援》

- ・高等教育センターによる入学前教育の実施
- ・学習支援センターによる基礎科目の学習相談・指導の実施
- ・ネイティブ・スピーカー常駐のランゲージ・カフェの設置

《入学納入金(授業料等) 納入時期の猶予》

【概要】

高等学校等において日本学生支援機構の給付奨学金(予約採用)を申請し、“採用候補者決定通知書”を受領している入学予定者であって、経済的理由等により所定の期間内における入学納入金(授業料等)の納入が困難な者に対し、納入期限の猶予(延納)を認める。

【対象】

原則として、すべての入試選抜方式による入学予定者から納入期限の猶予(延納)に関する相談を受け付けている。

【申請条件】

所定の期日までに、以下の証明書類を提出すること。

1. 日本学生支援機構“採用候補者決定通知書”の写し
2. 本学所定の“入学納入金延納申請書”

【猶予期日】

当該年度の6月20日(予定)

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

◆キャリアガイダンス

3年生を対象としたガイダンスとしては、4月に『就活スタート準備ガイダンス』を2日間開催し、804名の参加者となった。続いて、「自己理解」・「仕事理解」・「社会人マナー」の3テーマで『就活スキルアップガイダンス』を実施し、延べ443名が参加した。

10月では、『秋の就活 Next Step ガイダンス for2027』を2日間開催し、延べ91名(実数70名)が参加した。

4年生対象としては、7月に『夏で決めきる!!4年生のための内定講座&面接会』を実施し、30名が参加した。

◆合同企業説明会

3年生を対象とした説明会では、6月に夏のインターンシップ/オープンカンパニーに向けて学生と企業を繋ぐ『オープンカンパニーフェア』を4日間開催し、延べ446名が参加した。企業150社が参加する『OSU 就活フェスタ』を11月末から12月上旬の6日間にわたって開催し、参加者延べ数は1,337名(実数304名)となった。

また、未内定である4年生の学生を対象とした学内企業説明会『内定エクスプレス』を11月に実施し、14社の企業に出席していただき、参加した学生の延べ数は19名であった。

◆キャリアコンサルタント(国家資格)有資格者による個別面談

キャリアセンタースタッフ14名のうちキャリアコンサルタント有資格者10名が常駐し、個

別面談を通して学生の就職活動の支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生相談室を開設し専門的な知識と経験を有したカウンセラー5名（内2名は兼務教員）を配置して、学生に寄り添い親身になって相談に応じる体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.osaka-sandai.ac.jp/about/public/educational.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F127310108009
学校名（〇〇大学 等）	大阪産業大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 大阪産業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1981人（980）人	1836人（859）人	2026人（ 1009 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	656人	573人	
	（うち多子世帯）	（ 162 人）	（ 106人）	
	第Ⅱ区分	241人	278人	
	（うち多子世帯）	（ 44人）	（ 61人）	
	第Ⅲ区分	180人	169人	
	（うち多子世帯）	（ 45人）	（ 34人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	175人	158人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	237人	192人	
	区分外（多子世帯）	492人	466人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－ 人（－）人
合計（年間）				2031人（1010）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	32人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	85人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	28人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	17人	人	人
計	142人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	20人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	35人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	16人	人	人
GPA等が下位4分の1	262人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	64人	人	人
計	296人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。